

概要報告

実施期日	8月4日(金)
部会名	中学校 社会部会

神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『自らの学習を調整する力を育む授業（個の特性に合わせた授業づくり）』

提案概要

学習指導要領における授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、自らの学習を調整する力を育む授業や個の特性に合わせた授業・評価の工夫が肝要である。その実践例として、本提案では以下の3点を取り上げた。

- ① 「スパイダー討論」・・・討論の様子について発言者同士を線でつなげることで可視化
【成果】 討論を繰り返すことで自己調整力を高められる
集団形成を行う方法として適している
【課題】 発言しやすい環境を整えることが必要
「より良い結論を導き出す」には適していない
- ② 「PBL (Project Based Learning)」・・・生徒自身による問題解決型学習
【成果】 自分に合った学習方法を見つけられる
情報処理能力も併せて養うことができる
【課題】 情報の収集が目的となってしまうことがある
- ③ 「聞き取りテスト」・・・記述ではなく口頭での発表による評価方法
【成果】 書くことが苦手な生徒にとっては安心感や学習意欲の向上につながる
正しい力（身につけている力）を確認することができる
【課題】 記述式と聞き取り式で評価基準を同じにしているが、そもそも異なる方法で評価をすることが妥当なのか難しい

いずれの実践においても生徒の学習意欲の高まりを感じるものとなった。特に授業内での意見交換や教え合いの場において、教える側・伝える側・聞き取る側すべてに工夫や成長を感じた。それぞれの特性に合わせた実践が、学習の個別化につながり、生徒一人ひとりの「自らの学習を調整する力」の育成につながる効果があった。一方、課題としては、すべての生徒の特性に合わせた授業・評価の実現に向けては、支援の仕方の工夫が必要であるということ、取組に対する時間が大きくかかってしまうこと等が挙げられる。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、今後も学び続ける姿勢が重要である。

質疑応答

特になし。

協議の柱及び協議概要

○3つの実践の工夫点や改善点

「スパイダー討論」

- ・ グルーピングの工夫ができそう（ペア→グループ）
- ・ 見本や教師側の手立てを作っていくことが大切
- ・ 生徒同士の見取りが大変では？

「PBL」

- ・ 意見をまとめる際にタブレットを活用できる
- ・ 単元の大きな目標を自ら解決するのに有効

「聞き取りテスト」

- ・ 書くのが苦手な生徒の手立てとなる
- ・ PBLのまとめで聞き取りテストを活用することで新たな学びの手段になるのでは？
- ・ 「話す」と「書く」の評価基準の統一は必要？

○学習を調整するための工夫点・取組

- ・ ICTを活用したまとめ活動
- ・ 毎時間の振り返りを大切にする
- ・ 書くことが苦手な生徒に対し、発表や絵を活用させる
- ・ 自己調整のためには、教師側から多様な学習方法を提示する必要がある。
- ・ 学校全体での取組が必要

まとめ概要

本提案では、提案市部会の研究および、その実践例について発表がされた。昨今、「主体的に学習に取り組む態度」の観点について議論・研究が進められている。提案市部会では、共通のテーマについて、各学校で様々な授業実践・学校の枠組みを越えた共有が行われているとのことだった。主体的に学習に取り組む力の育成は「知識・技能」や「思考・判断・表現」といった他の観点の成長にもつながる。そうした中で、生徒自らの学習を調整する力が求められている。本提案では、「自己調整力」や「個別最適化」を意識した評価方法、授業方法について、研究内容の発表が行われた。また、各実践例についての工夫点や改善点について、活発な議論が行われた。提案・協議を通して「主体的」「対話的」を具現化できる時間であったように感じる。

助言者からは、生徒の主体性を育むためには目的や理想をはっきりさせる必要がある、とご指導いただいた。教師側は「生徒にどう教えるか」から「生徒はどう学ぶか」という、学び手視点の授業づくりが求められている。本部会では、そうした視点にも目を向けながら授業改善に向けて、有意義な情報交換ができる場となった。